

第54回 日本緑化工学会大会研究集会報告

解説「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」

日本緑化工学会緑化植物委員会

1. 研究集会概要

第54回日本緑化工学会大会において、2023年9月20日に日本緑化工学会緑化植物委員会の企画による研究集会を開催した。約90名の参加者を集め、本テーマへの関心の高さがうかがわれた（写真）。開催概要は下記の通りである。

日時：2023年9月20日（水）16:15～17:45

会場：朱鷺メッセ201A会議室

テーマ：解説「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」

プログラム：

(1) ガイドラインの目的、緑化水準の設定、地域性種苗・国内産在来緑化植物を使用する場合の植物材料の選定方法（大阪公立大学 今西純一）

(2) 外来牧草類による生態系への影響、外来牧草類等を使用する場合の植物材料の選定方法（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 江川知花）

(3) 目標群落の設定、成績判定（東興ジオテック（株）吉田 寛）

(4) 準備工の計画・実施（雪印種苗（株） 入山義久）

(5) 緑化目標達成に向けた植生管理工（西日本高速道路（株） 川原田圭介）

2. 開催趣旨

緑化において地域の生物多様性に配慮することは益々重要になってきている。日本緑化工学会は2019年5月に「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」を公表し、短期ビジョンとして「地域性系統の植物による緑化の推進」や「外来植物による緑化におけるリスク管理の実施」を挙げた。本研究集会では、これらのビジョンの実現に向けて2023年5月に新たに公表された「生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱い方に関するガイドライン 2023」について解説を行った。

3. 研究集会記録

ガイドライン 2023 は、生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱いのあり方を示すことによって、政策立案者や発注者、計画・設計者、種苗供給者、施工者、植生管理者等の緑化関係者に参考となる資料を提供すること、また、現行の予算確保、発注～施工等のプロセスの見直しや既存の手引きや指針等のアップデートを促すことを意図して作成された。これらの目的達成の一助とするため、研究集会で使用した発表スライドと研究集会の動画記録を、学会ウェブサイトに掲載する予定している。なお、解説は要点のみであるため、詳細はガイドライン本体をご確認いただきたい。



写真 研究集会会場の様子